

農学部・農学研究院

外国語教育の方針と学生の外国語能力向上のための取組

1) 外国語能力の到達目標

・令和3年度入学者より、農学院入学試験において英語外部試験のスコアシート提出を必須とする。農学部生の約70%は大学院へ進学するため、出願基準となる「TOEIC L&R600点以上、TOEFL iBT62点以上」が一つの到達目標となる。

2) 外国語能力を向上させるために実施する取組

- ・学生の留学サポート体制を強化するため、留学支援室の機能を高める。
- ・短期・中期・長期留学生を安定的に受け入れる体制を確立する。
- ・コチュテルによる派遣，受け入れを強化し，ダブルディグリー制度の実際化を図る。
- ・札幌農学同窓会の海外渡航助成制度を活用して学生を海外での国際学会等に派遣し，学生の主体的な学修を促進する。
- ・国際食資源学院で行われる教育研究への協力や PARE プログラムの実施を通して，グローバル化を推進する。
- ・熱帯アジア新興国プログラムを通して，ミャンマー等，複数の国に教育研究拠点を設置する。

3) 外国語能力を把握するための取組

・農学院入学試験において英語外部試験のスコアシート提出を必須とし，英語能力を把握する。

4) 取組の実施予定時期

令和3年度入学者より実施予定。

学生の国際性を涵養できた実例

実例 1

学生 A は、本学入学と同時に新渡戸カレッジに入学し、1年次から英語を使うフィールドワーク科目を履修したり、海外短期語学研修へ出たりと、積極的に活動していった。農学部へ進学してからも、2年次にはアラスカ大学への短期留学やカセサート大学で実施された LS 科目に参加し、また継続して留学支援英語や国際交流科目、英語で開講されている専門科目を履修して語学力に磨きをかけた。3年次後期からは交換留学プログラムを活用して10か月間、アラスカ大学へ交換留学し、帰国後は優れた成績で本学部を卒業するとともに、英語外部試験でも高いスコアを修得し、新渡戸カレッジでは「**Magna cum Laude**」という称号を授与された。卒業後は、**Texas A&M University** に留学している。

実例 2

学生 B は、農学部在学中から海外留学を考え、指導教員の指導のもと準備を重ね、修士課程1年入学後から留学できるようにトビタテ！留学 JAPAN プログラムを申請していた。農学院に入学したのち留学と海外フィールドワークを行い、帰国後は留学先で修得した単位を農学院にて認定されたほか、インターンシップやフィールドワークについても「国際農学特論」「国際農学研究」として単位認定を受けた。

修了後は国際協力を行う企業に就職し、これまでの経験と知識を役立てている。